１０月のイベントは「鉄道の日」コーナーと「文具のなる木 収穫祭」の２本立て！

今年は鉄道開業１５０周年。１０月１４日の鉄道の日にちなんで「鉄道に関する文具」の販売コーナーを作成しました。トミカなど子ども向けのものから細かなペーパークラフトや切符を模したカードなど大人向けのものまで、さまざまな文具をご紹介しました。

そして１０月２日は「文具のなる木」ができて２年の記念日でした。「文具のなる木」は「文具の実がなる不思議な木」ということで、文具の実の「収穫祭」イベントを１０月１５日からスタート。

１０月のイベントといえば、もうすっかり「ハロウィン」ですよね。仮装やコスプレをしてパーティをするイメージが強いですが、本当の「ハロウィン」の起源をご存じでしょうか。発祥とされているのはなんと２０００年以上も前。

古代ケルト人が行っていた祭礼「サウィン（Samhain）」が起源だといわれています。サウィンは「夏の終わり」を意味し、秋の収穫を祝うとともに、悪霊を追い払う宗教的な行事として、古代ケルト人の暮らしに根づいていました。

そうです、諸説ありますがハロウィンは元々「収穫のお祝い」だったのです！ということで今年の「収穫祭」は「ハロウィン」も兼ねて、折り紙で工作をしてくれた方と２００円以上ご購入のお子様に合言葉を言ってもらうと「ぶんちゃんからの挑戦状」付きのお菓子をお渡ししました。挑戦状の答えの日にお店のどこかでぶんちゃんが待っています！挑戦状の謎を解いて、ぶんちゃんに会いにきてね！

ちょこっと豆知識 日本の伝統文化だけどいつからあるの・・・？

１０月のイベント「文具のなる木　収穫祭」に登場、さらにちょうど１１月１１日が「おりがみの日」ということで、今月の豆知識は「折り紙」について。小学校の入学準備の中にもあり、知らない日本人はいないと言っても過言ではない「日本の伝統文化」である折り紙は、一体いつから始まり、広まったのでしょうか。

まず、折り紙の原料となる「紙」を作る製紙技術そのものは６世紀頃に日本に伝来し、平安時代後期あたりから大量の和紙が生産されるようになりました。そうした中で、平安～鎌倉時代の公家・武家社会の上流階級の間で、冠婚葬祭などの儀礼的、礼法的場面において大事な手紙を折り畳んだり、物を包むような文化習慣が生まれたようです。

現代の折り紙の形になり始めたのは、江戸時代の元禄（１７００年）の頃から。製紙技術の向上とともに庶民の間にも色付きの和紙折り紙での、折り鶴や舟などの現在に通じる伝承折り紙の原型が作られるようになりました。明治時代以降近代～現代では、大量生産の可能な洋紙（上質紙）が出現し、片面に色が塗られた正方形の洋紙が折り紙となって学校の教材にも利用され、急速に全国的に普及していったのです。

ちなみに「おりがみの日」について、１１月１１日が世界平和記念日であることと、１を４つ組み合わせるとおりがみの形・正方形になることから１９８０年に日本折紙協会が制定しました。平和や希望、鎮魂や絆、幸運や純愛などの言葉の象徴として世界中の人々にそのイメージが浸透してきている「千羽鶴」が「折り紙」で作られるというのも、偶然なのか、意図したものなのか…。日本の伝統文化で、平和の象徴が作られるというのは素敵なことですね。

stationery goods
BUNseido
株式会社 文盛堂

TEL　042-752-2303(代　表)
042-752-1104(店直通)
FAX　042-755-5117
〒252-0237
相模原市中央区千代田 6-1-18

ＵＲＬ http://www.bunseido.net　ＭＡＩＬ bunseido@bunseido.net

ショップカードもあります
LINE @wdi0003d
インスタグラム
@bunseido
Youtube チャンネル
ぶんちゃんねる

しんぶんちゃんの他にもこちらで最新情報をお届けしています！